



http://www.koritsu.jp

株式会社コーリツ

- 所在地：大分市大字羽田1153番地の4
- TEL：097-567-5100
- 事業内容：デジタルカメラの組み立て、生産工具設計製作
- 雇用人数：健常者848人 障がい者2人
- 沿革：1990年 株式会社コーリツ設立
大分キャンパスのカメラ組立協力工場として生産開始
- 1997年 羽田工場完成
- 2003年 ISO9001：2000へ認証移行
- 2005年 生産技術部設置



障がい者も健常者も同じ“戦力” 仕事を通して自信と責任感を身につけてもらいたい

現在の障がい者の雇用状況等について

■ 雇用している障がい者の状況

20歳代と40歳代の、軽度の知的障がい者2人が勤務している。一人は自立してアパートから通勤している。

■ どんな仕事をしているか

生産管理部門で空箱やパッキンの回収を担当。さまざまな部品が箱やパッキンに梱包されて同社に運び込まれてくる。これらは廃棄するのではなく、細かく分別されたのち、送り返す作業を健常者の従業員とともに担当。

分別が間違っていればクレームがくるため、回収車が来るまでの決められた時間内に、正確に作業を進めなければならない。



部品が入ってきた空箱を整理する作業

障がい者を雇用して良かった点

目を見て指導すれば、彼らはきちんと仕事を覚えて、そして正確にこなしていく。仕事に対する集中力も素晴らしいものがある。作業の中には、健常者でもかなわない部分もあるので、そういう能力を見出し、覚えるまでは気長に教えてあげると、どんどん成長し、それが仕事に反映されていく。

コメント

■ 障がい者指導担当者

生産推進部副部長 佐藤 誠治さん



障がい者第1号(麻生陽さん)が入社したときにたまたま世話役を引き受けたことをきっかけに、障がい者雇用促進と、指導に関わっています。

当初は大変なことも多かったが、我が子を育てる気持ちで接すると彼らはやがて心を開いてくれます。

時には厳しく叱ることもありますが、信頼関係が成り立っているので彼らとの関係は良好です。

■ 現職障がい者

生産管理課資材部門 麻生 陽さん



入社して8年、空箱を回収するのが主な仕事です。ここでの仕事は楽しいですが、違うことにもチャレンジしてみたい気持ちも出てきました。

スポーツが好きで、休みの日はマラソンをして体を鍛えています。県内外のマラソン大会にも出場しています。また、野球、バスケットボール、卓球、ボーリングなども楽しむなど、気の合う仲間と充実した日々を過ごしています。

プロセス



■ 雇用スタート時の状況・雇用を始めようと思ったきっかけ

別府市の障がい者支援センターからの要請を受ける形で、とにかく一人を引き受けた。障がいの状態も、どのように接すればいいかわからない中、何とか働いてもらいたいという思い、仕事を通して人間的に成長してもらいたいという願いを持ち、試行錯誤しながら指導した。



■ どんな問題点にぶつかったか

なんの予備知識もなかったため、どう接していいかわからず、当初は腫れ物に触る感じで接していた。そういう気持ちが伝わったのか、半年間、ひと言も口をきいてくれなかった。また、働きたがらない、休みたがるなど我がままでどう接していいのかわかった。



障がい者も健常者も一緒に働いている



■ それに対してどんな改善策を取り、工夫してきたか



①現在の社内でのコミュニケーション

障がい者だからといって特別に意識することをやめることが大切だと痛感した。

また入社当初は支援センターの指導員の人に2日に一度は足を運んでもらってサポートしていただいた。

その後、あいさつを欠かさないと、休憩時間や就業後にコーヒーを飲みながら話し合うなどの交流を続けた。さらには仕事を間違えたときはなぜ間違えたのか、解決するまで一緒に考えて解決に導く手助けを続けた。

半年後、もう一人、障がい者が入社したのもきっかけとなったようだが、初めて話しかけてくれ、新入社員と競うように仕事をしたり、コミュニケーションが図れるようになってきた。

②サポート体制

特別な体制はとっていないが、覚えるまでは何度でも同じ指導を繰り返す。それがやがて生活面での自信となり、仕事に対する責任感が生まれてくる。

また甘やかさないことを心がけている。楽しく仕事をすることは大切だが、叱るところは叱る。我が子を育てる気持ちで接するようにしている。

